

御坊市 地震ハザードマップ

ゆれやすさマップ

北部版

地震ハザードマップとは？

大きな地震が発生すると建物が倒壊し、家具の下敷きになるなどの被害が生じます。また、道路や電気、水道などのライフラインの寸断、火災の発生など、大きな被害に発展する恐れがあります。阪神・淡路大震災では、犠牲者の約9割が住宅などの倒壊による圧死といわれています。

大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が重要です。また、地震に備えるためには、地域で発生する恐れのある地震、建物被害などの可能性を十分に理解し、防災に対する意識を高めることが重要です。

地震ハザードマップは、地震発生時に予測されるゆれの強さや、拠点避難所などの情報を表した「ゆれやすさマップ」とそのゆれに予想される建物の倒壊率を表した「地域の危険度マップ」の2種類で構成されています。災害時はもとより、日頃の防災対策にご活用ください。

ゆれやすさマップのみかた

影響が大きいと想定される3種類の地震の震度を重ね合わせ、それぞれの地域において最大の震度を表しました。予測される震度や拠点避難所などについて確認しましょう。

ゆれやすさマップは、御坊市への影響が大きいと想定される「中央構造線による地震」、「東海・東南海・南海地震」および「御坊市直下の地震」の予測震度を重ね合わせて、それぞれの地域で生じる可能性のある最大の揺れを表したものです。

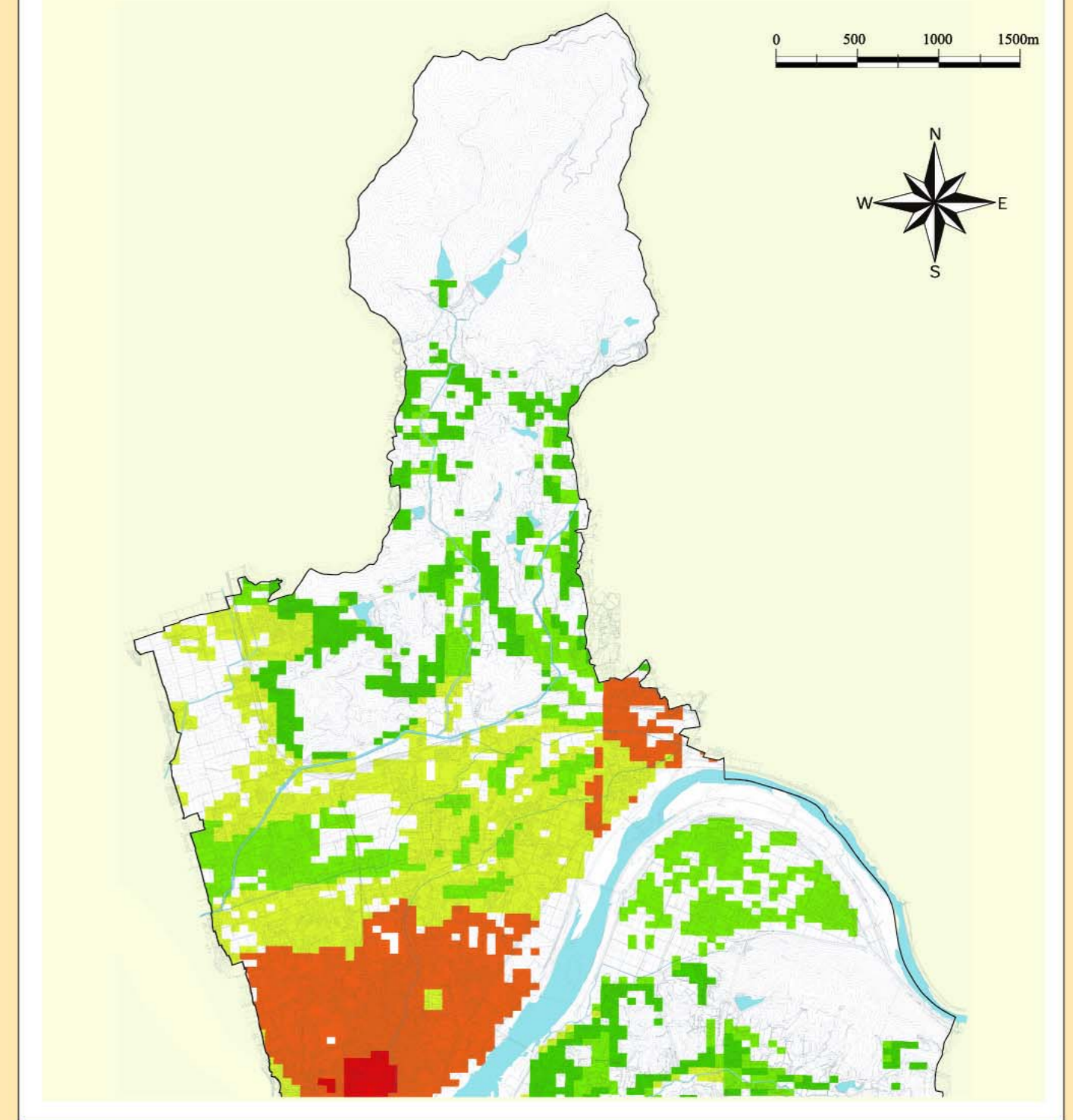
したがって、実際に発生した場合には、予測されたおりの震度の揺れが生じるとは限りませんが、最大の揺れに対する日頃からの備えに心がけましょう。

※東海地震、東南海地震、南海地震について、それぞれで予想されるゆれをメッシュ(50mX50mの網目)ごとに比較したゆれの最大値を採用しています。

地域区分図



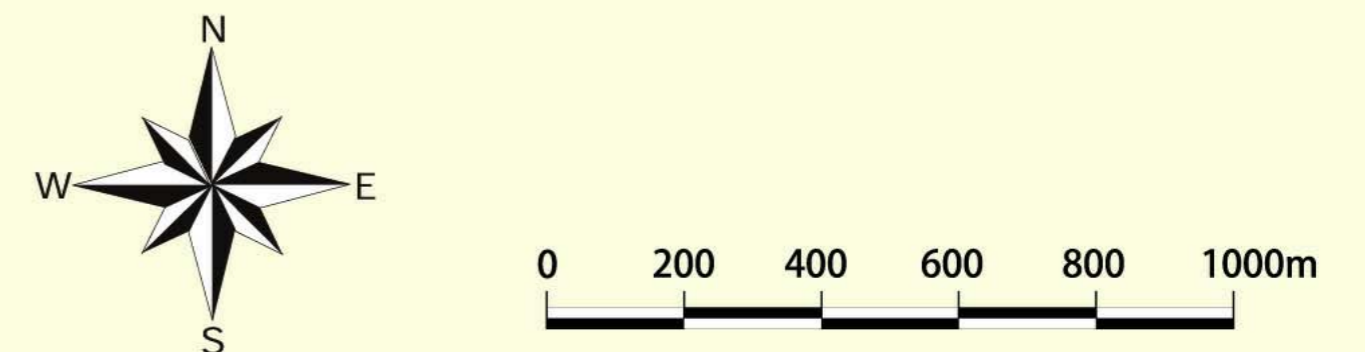
地域の危険度マップ 北部版



予測震度で倒壊すると考えられる建物の割合 (家屋全壊棟数率)

大	40%~49%*	倒壊する建物の割合が40~49%と考えられる地域
↑	30%~39%	倒壊する建物の割合が30~39%と考えられる地域
危険度	20%~29%	倒壊する建物の割合が20~29%と考えられる地域
↑	10%~19%	倒壊する建物の割合が10~19%と考えられる地域
小	0%~9%	倒壊する建物の割合が0~9%と考えられる地域

*計算上の上限値は48%です



拠点避難所一覧

名称	所在地	電話番号
御坊小学校	藪226	22-3131
御坊中学校	島10	22-3486
湯川小学校	湯川町小松原179	22-0910
湯川中学校	湯川町小松原50	22-0778
藤田小学校	藤田町藤井2047-1	22-0480
野口小学校	野口761	22-0437
河南中学校	塩屋町北塩屋300	22-0749
塩屋小学校	塩屋町南塩屋17	22-0859
名田小学校	名田町野島326	29-2334
名田中学校	名田町上野1348-15	29-2314

④津波が発生すると考えられる地震の場合は使用できません。

地震の震度予測結果とゆれの程度

大	震度6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。
↑	震度6弱	立っていることが困難になる。
震度	震度5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。
↑		
小		

(気象庁ホームページより)

凡例

- ☑ 拠点避難所
- ◎ 市役所
- ▨ 急傾斜地崩壊危険区域
- ▨ 地すべり防止区域
- ▨ 急傾斜地崩壊危険箇所
- ▨ 地すべり危険箇所

※地震発生時や余震時において、がけ崩れや地すべりが生じる場合があります。
※最新の情報は御坊市ホームページ「わかやま防災マップ」をご確認ください。

